

私のパーソナル音楽

ヒストリー

(安積との繋がりも含めて……)

東京桑野会副会長

小林伸久

(八十四期)



今年、母校創立40周年の年に当たります。思い起こしてみると、10年前にも、安積桑野会会報に寄稿しておりました。それから10年になるんですね。

さて、私が音楽と出会えたのは喜久田小学校の3〜4年の学級担任で音楽も教えて頂いた岩淵治子先生との出会いからです。後に安積高校合唱部のOB会で先生の息子さんの岩淵成紘(75期)さんと出会う事になるのですが、当時は知る由もありませんでした。そんな岩淵先生からバイオリンをやってみないと言われて、3名ほどが習い始めました。それ程長い期間ではなかったのですが、せいぜい「きらきら星」が何とか弾けるかというレベルでバイオリン教室は終了しました。音楽の楽しさを教わりました。

その後、お小遣いやお年玉を貯めてバイオリンを買いたいなと思っておりましたが、そのわずかな私の貯金は、いつの間にか妹の進学資金に消えたことを知り、ちよっぴり悲しかった事を覚えていきます。

喜久田中学校では、バスケット部に入学し、音楽とは一時的に縁が切れましたが、3年生になって、同じクラスの橋本弘実くんから、エレキをやってみないかとの突然の誘いがあり、参加しました。当時、ベンチャーズのエレキサウンドが一世を風靡していた時代。グループサウンズも盛んになってきた時代、リズムギターは簡単だからとの触れ込みでした。今のように音楽スタジオの無い時代、田舎の農家の納屋で思い切り音を出しても、クレームなどの無い時代でした。そして、中学校の卒業時の謝恩会でLIE NS(ラインズ)ベンチャーズの名曲、パイプラインから頂いたバンド名でパイプライン、ウォーク・ドント・ラン、クールエルシー、キャラバン等を演奏、喝采を浴びました。

安高生となり、クラブはバスケット部。中学校とはけた違いのハードな部活の練習でした。と言うのも我々が1年生の時の3年生は県では1位で、東北大会でも能代工業に次いで2位という実力校でしたから、止むを得ませんでした。そ

の後2年生となりましたが、3年生との折り合いが悪くなり、我々は殆ど退部という事になりました。その後は帰宅部となっていた2年生の世界史の授業の時間に村上修先生から「君たちの中で部活をやっている人は手を挙げてみる」と言われ、手を挙げたのは二人ほど。「君たちは、安積に何のために入ってきたんだ?受験のためか?そうじゃないだろう。一番大事なことは、安積での3年間で生涯の友を見つけることなんだぞ。その為には同じ目的で一緒に行動するクラブ活動が一番近道なんだぞ!」と授業をストンプして熱く説教してくれました。その後

我がクラスからは大勢がいるんな部活で活動するようにになりました。私も以前から興味のあった合唱部に入部する事となりました。大先輩の湯浅譲二(60期)さんが作った合唱部です。

当時の合唱部は部員も少なく、大会等では参加賞だけ頂いて帰るような寂しい状況でした。そんな中、合唱部を取りまとめてくれたのは同じ学年の部長、鈴木茂明(84期)くんでした。

自宅が静町にあり、遊びに行くこと決まっていたので、アノの前で歌唱指導になるのです。国立音大に入りたくて決めてからは、週末は頻繁に東京に通ったようです。そのかいあって国立音大の音楽科に入学、その後国立音大の大学院ドイツ

リート専攻を修了。合唱の指導にも力を注ぎ、開校したばかりの筑波大学混声合唱団の常任指揮者となり、その後OBが中心となって発足した混声合唱団コロ・ソフィア、女声合唱団コロ・コスモスその他の指揮、ヴォイストレーナーも務めており、とりわけ高田三郎合唱作品の演奏にも力を注ぎ、イタリア、フランスでも混声合唱団コロ・ソフィアを率いて演奏会もしてきました。また、自身でも歌い続けており、今年の5月11日には、紀尾井ホールでバリトンリサイタルを開催。合唱部の仲間三人と聞きに行きました。上野（旧姓木幡）恒彦（84期）くん、松井陽（84期）くん、相澤文憲（86期）くん。皆で70歳を超えても日頃声を鍛えている演奏家の声は凄いと実感し、感動しました。

安積の卒業が近くなり、合唱部の仲間から、卒業記念コンサートをやらないかとの話が道上がりしました。言い出しっぺは柳沼秀俊（84期）くん、私と嶋崎 宏（84期）くん、それに安女の合唱部から二人参加してもらって、フォークソングの「赤い鳥」のコピーバンドを結成。うすいデパートで歌いました。

安積を卒業してからの私ですが、実家は経済的に余裕のある家庭ではなかったので、朝日新聞の奨学生となり4年間築地専売所で新聞配達

をして、早稲田大学商学部を卒業しました。早稲田ではフォークソング同好会に半年いて日比谷野外音楽堂のステージにも立ちました。一番の思い出は卒業式です。田舎からお袋と下の妹を呼び、大隈講堂で商学部の卒業式が行われました。終了かなと思ったら、本日皆様の先輩がお祝いに駆けつけてくれました。と司会者から紹介され、現れたのは、ムッシュことかまやつひろし先輩で、「わが良き友よ」「どうにかなるさ」等をギターを弾きながら歌ってくれました。我々はこのサプライズに大喜びでした。

そうこうしているうちに卒業時期となり、再び安積時代からの友人、柳沼秀俊くんから、再度卒業コンサートをやらないかとの誘いがありました。彼は東京経済大学で、立川に下宿があり、そこが練習の場でした。柳沼くんの彼女がメインボーカル、柳沼くんと彼女と私の3人にコーラスサポートの女性を一人加えて、トライアングルプラスワンという名のバンドで、会場は池袋のシアターグリーンというところでした。めちゃめちゃ緊張して、上がってしまっ、帰りの電車の中ではぐったりして起き上がれませんでした。

大学卒業後は、縁故のある木場の材木屋に就職し、その後一時郡山に帰り、設備工事会社、



会計事務所を経て、最初に就職した材木屋の子会社に、子会社が合理化で親会社の傘下となり私だけが東京へと戻る事となりました。

そして音楽に関しては、広く浅く興味を持つようになりラテン、ブラジリアン、アフリカン等のパーカッション、フォークバンド、そして二十年ほど前からゴスペルを歌っています。現在は東邦音楽大卒の阪本理恵先生の津田沼カルチャーで月二回レッスンをしています。そしてRie &

Rumi Gospel Choirとして、時折ステージに立つのですが、そのコンサートのサポートミュージシャンをしてきたキーボードの齋藤良先生の誘いもあり、平成25年2月に墨田区主催の「第29回国技館5000人の第九コンサート」に初参加、その後毎回参加しておりライブワークの一つとなっております。そして、今年の2月18日に両国国技館で歌ったのですが、この国技館の第九の合唱団の指導してくれたのは何と麻山皓太（116期）くんでした。

それから、東日本大震災の後始まったいわきゴスペルフェスティバルにも単独で参加。一度ワークショップに参加し、本番には皆とステージに立ちます。これもライブワークになりつつあります。つい先日、6月22日にいわきアリオスのステージで歌ってきたのですが、その帰り道、そのステージを初めて聞きに来たという女性に道を尋ねられました。どちらからおいでですかと聞くと、「磐梯熱海」というではありません

せんか、その後いろいろ話をして熱海で旅館を経営する同期の高田正幸（84期）くんの奥様とわかり、びつくり！

音楽は素晴らしい、そして音楽を通じての人の出会いがまた素晴らしい！「ノームュージック ノーライフ」

追記、私が今日このように日々元気に行われるのは十六年前に現在勤務する孝和建商という会社に引つ張ってくれた小黒邦雄（70期）会長のおかげであり、大いに感謝しております。小黒先輩は豪胆ではありませんが、同時に心配りの出来る方でした。先輩は「俺は『う』のつくものが嫌いだ」とういのが口癖でした『嘘』と『浮気』そして『歌』が嫌いだという事でした。ある時スナックで先輩に「小林、何か歌ってみろ」と言われ、返答に窮しましたが、意を決し歌いました。クレージーケンバンドの「タイガーアンドドラゴン」。どうかなと思ったのですが阪神ファンの先輩は意外に喜んでくれました。

敬愛する大好きな先輩でしたが、令和五年三月十日に逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げますとともに、大変お世話になった事への感謝を記してペンを置きたいと思えます。

孝和建商株式会社 総務部 相談役

